

氷見市余川川流域の陸産フクロエビ甲殻類

布村 昇

富山市科学博物館 〒939-8084 富山県富山市西中野町1-8-31

Terrestrial peracarid crustaceans from Yokawagawa, Himi-shi, Toyama Prefecture, central Japan

Noboru Nunomura

Toyama Science Museum, 1-8-31 Nishinakano-machi, Toyama 939-8084, Japan

Terrestrial Peracarid crustaceans: Isopods and amphipods were surveyed; together with freshwater fauna of Yokawagawa As the results of the survey, six species of isopods and a species of amphipod were enumerated.

氷見市のほぼ中央を西から東に流れる余川川は全長5.450mであり、森林から農地、市街地、海岸へと環境が変化するので、環境により大型陸産甲殻類相が変化するのではないかと思ひ、陸産等脚目Isopodaと端脚目Amphipodaを対象にして、土手やそれに隣接する環境を調査地した。また、調査の一環として平内好子氏が余川京田のモミ林の土壤動物を調査した際に採取された標本もあわせて報告する。

調査日程 [全て平成20年]

4月8日、7月6日、8月12日、9月6日。

調査場所

表1のとおり。

調査結果と考察

土手やそれに隣接する環境調査地に関しては乾燥した草むらが多かったので、人間の営為の影響する乾燥した環境ではオカダンゴムシが上流部を除いてもっとも普通に確認された。

ワラジムシは人為の及ぶ農耕地や樹木の下などに多い。オカダンゴムシに次いで普通に確認された。セグロコシビロダンゴムシは適度な湿り気を持った斜面に生息する。

ニホンヒメフナムシとオカトビムシとは同時に出現することが多かった。これはともに湿潤さを

必要とする種類である。

端脚目 (ヨコエビ目) Amphipoda

ハマトビムシ科 Talitridae

オカトビムシ *Platorchestia humilis*

[調査標本] 1頭、懸札集落上8月12日; 2頭、新寺尾橋8月12日; 2頭、一の瀬橋9月6日; 2頭、味川9月6日; 1頭、小川9月6日; 5頭、新聞島橋付近4月8日、; 3頭、新聞島橋付近7月6日、; 2頭、新聞島橋9月6日

等脚目 Isopoda

フナムシ科 Ligiidae

ニホンヒメフナムシ

*Ligidium (Nipponoligidium) japonicum* Verhoeff

[調査標本] 1頭、懸札集落上8月12日; 5頭、懸札沖出集落下8月12日; 1頭新寺尾橋8月12日; 1頭、片倉付近味川9月6日; 1頭、味川9月6日; 1頭、小川、9月6日; 1頭、京地モミ林、7月6日 [平内好子氏採集]

ナガラジムシ科 Trichoniscidae

ナガラジムシ *Haplophthalmus danicus*  
Budde-Lund

[調査標本] 30頭、京地モミ林、7月6日 [平内好子氏採集]

トウヨウワラジムシ科 Trechelipidae  
 ホクリクサトワラジムシ *Mongoloniscus sp.*  
 (aff. *hokurikuensis* Nunomura)  
 [調査標本] 2頭、片倉付近味川9月6日  
 2頭ともメスなので種の識別が出来なかった。

ワラジムシ科 Porcelionidae  
 ワラジムシ *Porcellio scaber* Latreille  
 [調査標本] 1頭、味川大橋9月6日、; 5頭、金谷橋9月6日、; 8頭、新聞島橋付近7月6日、; 1頭、新聞島橋付近9月6日、

オカダンゴムシ科 Armadillidiidae  
 オカダンゴムシ *Armadillidium vulgare* (Latreille)  
 [調査標本] 2頭、緑ノ庄七曲谷8月12日; 1頭、新寺尾橋8月12日; 3頭、高戸橋9月6日; 2頭、一の瀬橋9月6日; 3頭、西の川橋8月12日; 1頭、片倉付近9月6日; 3頭、久保付近9月6日; 1頭、一勿9月6日; 1頭、味川大橋9月6日; 1頭、市谷橋8月12日; 2頭、金谷橋9月6日; 2頭、田中橋8月12日; 3頭、新道橋、平成20年7月6日、; 1頭、稲積橋、7月6日、; 3頭、桜橋7月6日; 3頭、新聞島橋9月6日; 1頭、新聞島橋9月6日。

コシビロダンゴムシ科 Armadillidae  
 セグロコシビロダンゴムシ *Spherillo dorsalis* (Iwamoto)  
 [調査標本] 5頭、懸札集落上8月12日; 5頭、京地モミ林、7月6日 [平内好子氏採集]

引用文献

- 布村昇 (1998) いたち川の無脊椎動物。いたち川自然環境報告 (1995-97)。富山市科学文化センター  
 布村昇 (2002) 底生無脊椎動物 in 庄川水系合口ダム流域調査 富山県砺波農地林務事務所  
 布村昇 (2006) 底生無脊椎動物 in 富山県魚津林務事務所・富山県生物研究会・水土里ネットワーク富山、黒部川合口流域地区生態系調査報告書 富山県、魚津農地林務事務所。

流域名	地点名と土手および隣接地の環境	ニホンヒメフナムシ	ナガワラジムシ	ホクリクサトワラジムシ	セグロコシビロダンゴムシ	ワラジムシ	オカダンゴムシ	オカトビムシ
上余川	懸札上(森林)	○			○			○
	懸札沖出南(草)	○						
	緑ノ庄(草)						○	
	新寺尾橋(草)	○						
	高戸橋(草、森)						○	○
	一の瀬橋(草、森)						○	○
	西の川橋(草)						○	
一勿川	片倉(草、森)	○		○				
	久保(草)						○	
	一勿(草)						○	
	味川(草、森)	○						○
	味川大橋(草)					○	○	
	小川(草、森)	○						○
	市谷橋(草)				○		○	
余川	五柱橋(草)				○			
	田中橋(草、森)				○		○	
	古戸橋(草)				○			
	金谷橋(草)					○	○	
	新道橋(草)						○	
	稲積橋(草)						○	
	桜橋(草)						○	
京地モミ林	新聞島橋(石・砂)					○	○	○
	京地モミ林	○	○	○				

表：各地点毎の出現状況

氷見市余川流域総合調査

氷見市上余川水系の水生昆虫

川添 憲三  
 〒930-0137 富山市呉羽本町6566

Fauna of aquatic insects of Kamiyokawagawa River, Himi-shi, Toyama Prefecture, central Japan

Norimitsu Kawazoe  
 Kurehahonmachi 6566, Toyama, shi, Toyama 930-0137, Japan

上余川は富山県氷見市の北西、懸札の山地にある沼地(標高約400mm)を水源とする小河川である。上流部は山地の平坦部は水田、畑地でその間の窪地を伝って小川が形成されている。そのような場所には、水量も多くないため、わき水がある部分には、サワガニ、ヨコエビ類が僅かにみられる程度である。水量が多くなるに従って、サワガニ、ヨコエビに加えて、蜻蛉目均翅亜目カワトンボ科のオオカワトンボ、不均翅亜目オニヤンマ科のオニヤンマ、トビケラ目カクツツトビケラ科のオオカクツツトビケラ等が見られるようになる。更に懸札より下流になると小溪流の体をなし、V字谷状になりコンクリートで護岸され、調査を行うのが危険なところが所々に見られた。更に下流の緑の庄付近は、砂岩層でできており、水生昆虫としてはカゲロウ目ではモンカゲロウ科フタスジモンカゲロウ、蜻蛉目では上流でも見られたオオカワトンボ、トビケラ目ではアミメシロフツヤトビケラ科のPCシロフツヤトビケラ、PBシロフツヤトビケラがみられた。この場所は砂地が多く水生昆虫にとっては、夏場は住みにくいように思われる場所である。更に下流の市ノ瀬付近は細かい粘板岩層で所々に窪みや粘板岩の破片があり、流れが速く水量も多くなり小溪流状で瀬と淵が交互に現れる河川形態である。粘板岩の表面にカゲロウ目のコカゲロウ、ヒメヒラタカゲロウ類が見られた。粘板岩の破片の間にカゲロウ目マダラカゲロウ科のヨシノマダラカゲロウ、蜻蛉目では均翅亜目カワトンボ科のオオカワトンボ、不均翅亜目サナエトンボ科ヒメクロサナエ、モイワサナエ、

コオニヤンマ、ヤンマ科コシボソヤンマ、カワゲラ目ではカワゲラ科ヒメオオヤマカワゲラ、フタツメカワゲラ、クロヒゲカワゲラがまた広翅目のヘビトンボもみられ、更に岩陰や水のよどみにはカゲロウ目チラカゲロウ科チラカゲロウ、モンカゲロウ科フタスジモンカゲロウとこの場所に来て個体数も種類数も俄然多くなって、季節が良ければもっと採取される種類数も個体数も多くなることが期待される。

さらに下流の京地橋付近は両岸にアシ、マコモが生えるこの付近に昔あった河川形態の場所で、川底はやや鉄分の多い赤褐色きみの砂泥である。所々に土砂の流出を留める水制堰が設けてあり、水制堰には砂泥に住めない種類の昆虫が見られる。この付近で見られる昆虫は、アシ、マコモの根付近では蜻蛉目均翅亜目のオオカワトンボ、ハグロトンボ、アオハダトンボ、不均翅亜目オニヤンマ科オニヤンマ、サナエトンボ科ヤマサナエ、ヒメクロサナエ、コオニヤンマで、砂泥付近に見られるものはカゲロウ目のモンカゲロウ科フタスジモンカゲロウ、キカワカゲロウが見られ、水制堰付近ではその他のカゲロウ目コカゲロウ科フタバコカゲロウ、カワゲラ目カワゲラ科フタツメカワゲラ、カミムラカワゲラ、トビケラ目シマトビケラ科ウルマーシマトビケラ、セリーシマトビケラ、カクツツトビケラ科オオカクツツトビケラ、エグリトビケラ科ニンギョウトビケラ等であった。この付近の特長は、蜻蛉目が豊富で他の種類も個体数も少なかった。

この川を調査して、特に多く採取された昆虫類